



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校

令和3年11月25日

150年の伝統を誇りとして

校長 菅原 透

「節目に想い、感謝し、誓う」

本校は、明治四年に「荒砥郷校」として創立。分校等との統廃合や幾度とない校名変更の後、昭和二十九年に白鷹町誕生と合わせて「白鷹町立荒砥小学校」と改称。そして、平成十年に十王小、平成二十七年に鷹山小と統合し、現在の荒砥小学校の姿になりました。その間、百五十年もの歳月が流れ、多くの卒業生を輩出し、地域の皆様からの力強い支えをもとに、重厚な伝統を築き上げてきました。

百周年を迎えたのは昭和四十六年で、私が小学三年生の時でした。八乙女ガ丘の木造校舎に歴史を感じ、記念碑が建立されたことを今でも覚えています。教員となり、母校に勤務できる幸せに預かったのは三度。教諭時代には卒業担任を二回務め、その教え子が、保護者として、同僚として、私と学校を支えてくださっています。十王地区に校区を広げてからは教頭として三年間。荒砥と十王の熱い思いで教育活動が充実しました。そして、現在。初年度には中山地区夏祭りには出席し、和やかで温かな風を感じ取りました。鷹山・十王レク大会も同様で、私の住む荒砥と合わせ、優しい心にあふれる地域性に感激しました。奇しくもコロナ禍に入り、様々な制限下にある昨今ですが、すべての子ども達に笑顔が生まれるよう、できる限りの工夫を積み上げています。昨年予定されていた学校研究発表会や世界的イベントである東京オリンピックが順延になり、創立百五十周年の令和三年度に実施となりました。誰もが予測できなかった運命的な巡り合わせで、誰もが記憶に残る大きな節目になりました。

本校校是は『琢磨』智徳ヲ切磋琢磨シテ

有用ノ材タレ」。

明治の代に佐々木高行卿が「琢磨学校」と命名したことに由来します。

以来、在籍した子ども達、ともに歩んだ教職員（私の祖父も十六代校長としてお世話になりました）、保護者、地域の方々によって脈々と受け継がれ、磨き上げられてきました。これまで携わってくださった皆様に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。そして今は、荒砥、十王、滝野、萩野、中山の子ども達が、切磋琢磨して自分を伸ばし、地域の皆様とともに学校を創っています。今年度は、校是「琢磨」と学校教育目標の具現に向けて、めざす学校像「元気！本気！琢磨校」とめざす子ども像「あいうえお名人（あいきつ・いい姿勢・歌声・えんぴつ・思いやり）」、めざす大人の姿「四かけ人（手・声・目・心をかける）」を設定しました。また、学校運営協議会制度により、地域と一体になった学校づくりもスタートしました。ふるさとを愛し、誇りに思う心を土台に、激動の時代をたくましく生き抜く力を子ども達一人ひとりに育むべく、尚一層、学校経営を充実させてまいります。今後とも、変わらぬご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

結びに、創立百五十周年記念事業を企画運営していただきました関係各位に心から御礼申し上げますとともに、これからも、よき伝統を磨き続け、子ども達はもとより、支え導く大人達も、胸を張って自慢できる学校に創り上げることをお誓いし、御挨拶といたします。



文屋小百合さんによる
記念コンサート

これは、記念誌に掲載した挨拶文です。
今後ともよろしくお願いいたします。